

札幌中央最強戦・釧路予選開催

釧路予選開催

日時：平成22年11月7日(日)13:00～

場所：釧路支部道場にて

参加費：一般1,500円

(釧路支部会員は1,000円)

代表1名に12月19日(日)、札幌市(将棋サロン&カフェみずなら)で行なわれる本戦へ出場する権利が与えられる。

詳細は同みずならのホームページ参照

<http://aqua-oak.com/>

なお、当日開催予定の釧新杯11月例会は、上記予選に合わせ予定通り開催される。

また、最強戦本戦が12月19日に行われることに伴い、12月19日に予定されていた釧路最高位戦が12月12日へと変更になり、12月12日の釧新杯が12月19日へと変更になった。

変更後の予定は、下記を参考にしてほしい。

【予告】既報の通り、北海道知事賞争奪札幌中央最強戦(12月19日日本戦)の参加選手の選考予選が数か月にわたり行われているが、このたび、釧路地区でも予選大会が行われることとなった。
釧路決選は、11月7日(日)13時からだ。
将棋が盛んで、これまでも多くの強豪を輩出してきた伝統ある釧路から、いったい誰が選ばれるのか注目されている。

めざせ北海道知事賞

みずなら

日本将棋連盟札幌中央支部(札幌市中央区北3西2NCビル2Fみずなら) 011-788-9215 FAX011-788-9215

作 山下弘人 (五手詰)
みずなら席主に見せたら、ひとにらみで詰まされた。その間、ほんの数秒。
その後「ところで、この2四角は何の意味があるの?」と尋ねられて、「別な詰み筋を消すために置いてあるだけです。」と正直に白状した。(洗練されていない出題で面目ない!)
札 札 中央最強戦・予選
【結果】10月予選大会
優勝・近藤伸哉
準優勝・澤田歩

(変更後の予定) 青字 印が釧路のイベント

- 11月7日(日) 釧新杯11月例会 (釧路市)
- 11月7日(日) 札幌中央最強戦 釧路予選大会 (釧路市13:00～)
- 11月7日(日) 朝日アマ名人戦 = 札幌地区予選 (札幌市：道将連)
- 11月21日(日) 朝日アマ名人戦 = 北海道予選 (札幌市：道将連)
- 11月21日(日) 札幌中央最強戦11月予選大会 (札幌市：みずなら)
- 12月12日(日) 釧路最高位戦 (釧路市)
- 12月18日(土) 札幌中央最強戦 12月予選大会 (札幌市：みずなら11:00～)
- 12月18日(土) 札幌中央最強戦 組合抽選&前夜祭親睦交流会 (札幌市：みずなら18:00～)
- 12月19日(日) 札幌中央最強戦 本戦大会 (札幌市：みずなら 知事賞&副賞10万円)
- 12月19日(日) 釧新杯12月例会 (釧路市)

釧路方面の将棋情報は下記ブログが詳しく、参考になる。

<http://blogs.yahoo.co.jp/kanchan946>

札幌中央最強戦では、複数の予選大会への参加を認めている。なので札幌の予選に複数回チャレンジしても構わないし、例えば札幌居住者が釧路に遠征して予選に参加しても良い。ただし複数の予選を通過したとしても本戦には1人として参加していただくことになっている。



マスコミ掲載情報

『週刊将棋』 10月13日号 (11面) 齊藤優希(奨励会3級)さんのインタビュー記事。

『週刊将棋』 10月13日号 (13面) 大会予告・10月16日、最強戦10月予選大会予告記事

『週刊将棋』 10月13日号 (13面) アマ王将戦予選の結果記事。

北海道大会ベスト8のトーナメント表。代表となった武田浩司さんの写真入り紹介記事。

佐佐木 方斎展「逆絵画」

2010年11月2日(火) - 14日(日)

11:00a.m. - 7:00p.m. (月曜休廊)

TEMPORARY SPACE

札幌市北区北16条西5丁目1-8 tel/fax 011-737-5503

地下鉄南北線北18条駅徒歩5分 北大斜め通り

月刊『将棋世界』 11月号 p112・p154

『あなたの街にプロ棋士が行きます!』(第6回)の札幌東高等学校将棋同好会の模様。

札幌東急百貨店で8月に行われた「夏休み将棋まつり」へ来札の機会を利用して里見香奈女流名人・倉敷藤花が札幌東高を訪問した。

井のはなし

『雑文』 『ドングリころころ、どぶりこ・・・』と、童謡に歌われるところによれば、お池にハマった時の水の音

棋書探訪

木村八段『将棋新定跡』 初版は昭和7年だが本書

は改訂版で昭和11年のもの。木村八段というのは後の十四世名人。一般向けに駒落将棋の定跡と実戦譜を振り仮名付きで解説している。『ここに掲載しました図面の符號は本編の定跡を解説するに當つて、種々研究考慮した結果、一番合理的であると信じた方法であります。總て手前を下手とし、下手の左隅、即ち香の位置を一一と決めたものであります。下手を手前としたのは現代と同じだが、木村以前は上手手前表記もあつたよつた。符號(譜号)は左下が一一で、右上が九九の表記方法。譜は漢数字のみ。たとえば、下手が角道を開ける手は「三四歩」だ。上手が飛車先を突く手は「二六歩」だ。定價金一圓八十銭。



は“どんぶり”だ。昔話でも『おばあさんが川で洗濯をしていると、川上から大きな桃が、どんぶらら〜どんぶらら〜と流れてくる。桃が川を流れる時の水音は“どんぶらこ”だとされている。このように、今ではほとんど言われなくなつたが、昔は水音は“どんぶり”と表現されていたのだそう。

井戸の中に物を投げ落とすと、それが井戸の水に落ちた時、“どんぶり”と音がすることから、井の中に

点井)で、どんぶりというらしい。『井』の読みは「どんぶり」が正しいが『豚井』のように2文字のときは「どん」の読みで良い。最近では『井ぶり』なる表記も見かけるが、一重表記に思えてならない。写真は「将棋サロン&カフェみずなら」(札幌市中央

豚井



区北3西2NC北専ビル2階)の名物料理・ハープ豚を使った『豚井(特上)』1100円。

編集後記

文化の日 本号は11月3日付。将棋はもちろんのこと、読書や観劇、創作活動や芸術鑑賞はいかがか。

みずなら店の常連で、当支部の副幹事長も務める佐々木方斎氏の個展にも足を運んでみていただきたい。